

ヤマハ開発の緊急通話装置

欧州向け販売車に搭載

今春から

ヤマハの中田卓也社長は十七日の年頭会見で、自動車の緊急通報システム向けに開発した装置が、欧州で今春から販売される日本メーカーの車種に搭載されることを明らかにした。車で交通事故に遭った際に自動通報し、運転者がオペレーターと会話できる。既に複数メーカーの十車種以上での採用が内定しているという。

(久下悠一郎)

緊急通報システムは事故の衝撃でエアバッグが作動するなどの際、無線通信で自動的に通報し、迅速な救助につなげる機能。昨年一月からのロシアに続き、

今年四月からは欧州で発売される新車に搭載が義務付けられる。

ヤマハが開発した装置「車載通話モジュール」は、車内の声を拾うマイク

社長「第三の柱」成長期待



年頭会見をするヤマハの中田卓也社長＝浜松市中区で

車載通話機器による緊急通報のイメージ



や相手の声を伝えるスピーカーを一体化。車内の前方付近に設け、手を使わずに会話できるハンズフリーの状態できりとりできる。車種ごとの調整が必要なく、そのまま取り付けられるのが特長だ。

自動車関連の部品・装置は、ヤマハが主力の楽器や音響機器に続く「第三の柱」として成長を模索する分野の一つ。中田社長は「事故でスマートフォンを取り出す余裕がなくても話ができて、通話品質もしつ

かり確保できる。いろいろなメーカーから問い合わせをいただいております、成長を確かなものにして芽を大木にしたい」と述べた。

浜松市中区のホテルで開いた会見では、ヤマハが本社で整備を進める研究拠点「イノベーションセンター」や、一般公開を予定する展示施設についても説明。中田社長は展示に関して「世の中に送り出してきた画期的な商品をできるだけ並べたい。楽器の好きな人にはたまらない施設になる」と述べた。

静岡けいざい

